

# 環境学習施設の つくり方

—地域に多面的価値を創出する施設—

小学校の跡地にできた地域のにぎわい施設

福岡県みやま市バイオマスセンター  
「ルフラン」



今回は焼却工場ではなく、生ごみバイオガス化施設の紹介です。福岡県みやま市にある「ルフラン」は、市民が分けた生ごみやし尿などをメタン発酵させてガスを作り、発電をして場内で使っています。また、発酵時の消化液は、液肥として地域の田んぼや畑で有効活用され、美味しなお米や野菜として地域の人たちの食べものとなっています。そんなル

フランのある場所は、下の写真でもわかるように、廃校になった小学校跡地です。

もちろん、みやま市の小学4年生もここに見学にやってきました。しかし、クレーン模型やクイズ機器などの特別な設備はありません。市の環境衛生課の担当者からスライド資料と混入異物の現物などを使った説明を受け、バイオガスのプラントを見学します。自分たちの出したものがどのように形を変えて、自分たちのもとに戻ってくるのかという循環を小学生は学びます。何も特別な設備はないと書きましたが、あえて加えるならば、ここで働く人や地域の大人たちが語った短編の動画があります。地域で資源を回すということが、地域でお金を回すことや地域に仕事を作ることにつながるということとを、地域の人々が子どもたちに、自分の言葉で伝えている動画です。

元小学校だったルフランの建物には、市の環境衛生課が入っていて、全体の施設管理を行っています。日替わりカフェ、食品加工室、レンタルオフィスや coworking スペース、オープンスペースなどさまざまな部屋があります。

カフェスペースでは、個人や団体

が、日替わりでカフェを営業しています。現在8〜10グループが活動中です。左の写真は、カフェの予定表ですが、時間も回数も内容も多様性に富んでいます。

食品加工室は、地元で採れた農産物などを加工するために、15〜20グループほどの人が利用しています。ドレッシング、焼菓子、ジャム、ゼリーなどさまざまなものが作られていて、道の駅や、ルフランマーケット（ルフランでの無人販売）で売られています。

WiFi無線LAN完備のレンタルオフィス（月単位）や coworking スペース（日単位、月単位）も人気です。ちなみに coworking スペースは、1日220円で利用できます。

オープンスペースでは、ヨガ教室や絵画教室、学習室では外国語教室なども開かれています。ルフランは、こんな風に地域ににぎわいを作り出しています。

ルフランの活動は、内発的で自主的に運営されているところが特徴です。たとえば、カフェのグループの中には、認知症カフェをうたって、認知症の介護を担っている人や担っていた人が体験を共有する会があり



ルフラン全景（奥の方に見えるのが元小学校の校舎）

ます。また、別のカフェでは、「子ども食堂」として子どもたちに食べ物と居場所を提供する活動もしています。バイオマスセンターだから、これこれをするべきという枠組みを設定するのではなく、地域の人たちが自分たちに必要な活動を自分たちで楽しく始めて、行政はそれを邪魔せずに見守っています。

このような活動の元になったのは、廃校となる小学校の跡地利用について、地元有志や市役所、地域おこし協力隊などをメンバーとした「未来会議」という定期的な会議体でした。元小学校という地域の大切な思い出

# ルフランカフェカレンダー 2022 11月

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、休業や、営業時間の変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	月	火	水	木	金	土
		1 11:30-14:30 alnico	2 11:30-15:00 ゆるけん ごはん	3 9:00-11:30 ゆるけん ごはん	4 11:30-14:30 alnico	5 9:00-11:30 ゆるけん ごはん
6 11:30-14:30 haru	7 11:30-15:00 ゆるけん ごはん	8 11:30-14:30 alnico	9 12:00-17:00 ゆるけん ごはん	10 9:00-17:00 Refrain SelfCafe	11 11:30-14:30 alnico	12 12:00-17:00 ゆるけん ごはん
13 9:00-12:00 ゆるけん ごはん	14 11:30-15:00 ゆるけん ごはん	15 11:30-15:00 hodoke/の おべんと食堂	16 11:30-15:00 hodoke/の おべんと食堂	17 11:30-15:00 ゆるけん ごはん	18 11:30-14:30 alnico	19 9:30-16:00 あるに食堂
20 11:30-14:30 maru	21 9:00-17:00 Refrain SelfCafe	22 11:30-15:00 hodoke/の おべんと食堂	23 11:30-15:00 hodoke/の おべんと食堂	24 11:30-15:00 alnico	25 11:30-14:30 alnico	26 11:30-14:30 maru
27 お休み	28 11:30-14:30 alnico	29 9:00-17:00 Refrain SelfCafe	30 11:30-14:30 ゆるけん ごはん			

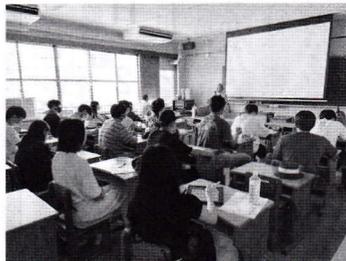
ルフランカフェの二予約は必ずルフランカフェ長へ直接お電話ください

- カネコ 090-8484-9083
- maru 090-4486-8367
- ゆるけん 090-5388-1775
- hodoke 090-4400-8916
- alnico 090-5065-4768
- ゆるけん 090-1488-2338
- haru 090-5388-1775
- RefrainSelfCafe 090-4400-8916

## ルフランカフェのスケジュール



ルフランカフェの営業風景



研修室(大阪産業大学の学生が見学に行った風景、小学生用の椅子は少々小さい)

みやま市のルフランは、地域の人たちの「より良い暮らし」を目的として、そのために循環やにぎわいを方策として用いているステキな事例です。(花嶋温子/大阪産業大学デザイン工学部環境理工学科准教授) **W**

●連絡先●  
環境学習施設研究部会  
「環境学習施設研究部会」で検索すると、(一社)廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会のページがでてきます。同部会がfacebookの「環境学習施設を考える会」も運営しています。

の場所に、生ごみやし尿といったものを集める施設を作ろうというので、隣接する大木町で、同じようなバイオガス化施設が成功していたことは、施設設置に向けての大きな助けになったそうです。カフェなどのにぎわい施設については、成功している事例を視察に行つて、内容を徐々に固めたそうです。市民による施設見学も、ルフランでマルシェ(市場)をやつていたら、そこに集まった地域の人から、「施設を見てみたい」という声があがつて始まったというボトムアップの活動です。

こんなルフランですから、見学期望が全国から多く寄せられ、それに対応しています。しかし、そもそもバイオガス化プラントには見学者用の特別な設備はなく、説明をする会場も元小学校の教室ですから、35席でいっぱいです。一度に多人数の見学には対応できません。また、ルフランの建物の中にある市役所環境衛生課の3人が見学の対応をしているので、人手不足でもあります。2019年度は、ルフラン開設初年度でもあり、152団体2254人の見学がありました。新型コロナウイルス感染症が流行して規制のかかった

2021年度でも51団体548人の見学があつたそう

最後に、ルフランの諸元です。ルフランは、人口3万6000人のみやま市で、家庭や事業所から分別排出された生ごみを、日量最大10t、

し尿42t、浄化槽汚泥78tの合計130t/日を受け入れ、メタンガスを発生させる施設です。発生したメタンガスを使ってコジェネ発電を行い、施設内の電力(約4割)と温水を活用しています。消化液はバイオ液肥「みのるん」として、市内17カ所に配置した液肥タンクから市民に無料配布しています。また、地元農家にも「みのるん」は無料で配られていて、散布手数料1100円/10aを払えば機械で散布してもらえます。「みのるん」は現在申し込みを断わらなければならないほどの人気です。